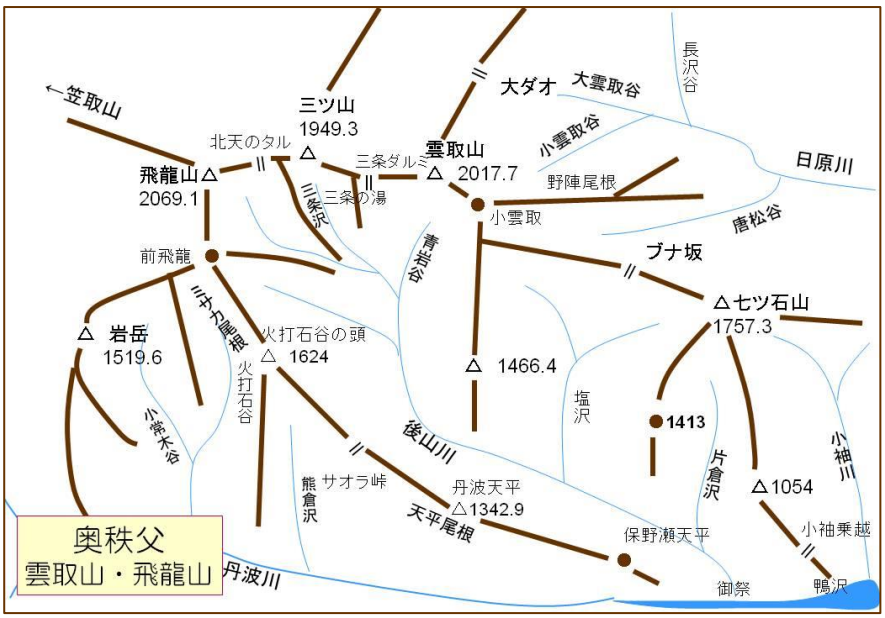
踏　み　跡　＜ My mountains ＞

奥秩父	雲取、飛龍から岩岳尾根へ	No.061

昭和41年3月13日（晴）
加藤の非番・定休の連休と、私の日月連休とが旨い具合に一致したので、雲取山へでもということになった。デパートに勤める彼とは日程を合わせるのに苦労し、年に数回しか一緒に出かけられない。お互いに因果な商売に身を置いたものだ。
昼前の立川駅で落ち合い11時33分の青梅線で氷川へ。そして氷川駅発13時30分のバスに乗り鴨沢に14時15分に到着。鴨沢から七ツ石小屋へは今年に入って四度目か。
西へ西へと動きの早くなった太陽の下、七ツ石小屋に16時05分着。夕暮れ間近の七ツ石小屋は、薪の山の向こうに大菩薩連嶺が。特に雁ケ腹摺山、小金沢連嶺が目立つ。富士もその向こうに見える。
あたりの木々の枯れ枝もカサとも音を立てず、実に静寂そのもの。
夕食は持参した飯を使っておじや、勿論肉も野菜も調味料も入っている。おまけにニンニクまで入れたため後になって口が臭くて閉口した。19時30分就寝。

昭和41年3月14日（晴時々曇り）
ぐっと落ち着いたもので5時45分起床、7時30分出発と大名並みのスタート。
飛龍山までは1月23日とまったく同じコースだが、期待に反して雪はなにもない。ピッケルはザックと背中の間で手持ち無沙汰に居眠り状態。
雲取山8時45分、頂上から眺めると、飛龍より西にしか雪が見えない。黄土色の寒々しい一ノ瀬高原の彼方に白く線を引いているはずの南アルプスが見えない。
雪がないだけで期待を裏切られた気持ちでいたのに、さらに雪の峰も見えず意気消沈。9時10分雲取山を出発。飛龍山11時18分、禿岩の先端に脚をだらんと腰掛けて食事をした後、12時10分に出発。前飛龍12時45分。
昼食の後でしかも気温も低くないので、すぐに汗ばんでくる。この汗、よくよく臭いを味わってみると、昨夜のニンニクの香りがたっぷり入っている。シャツにもニンニクのエッセンスがしみこんでしまった。でも仕方ない。汗なんか抑えられるものでもない。牛のよだれのように流れるに任せるしかない。
前飛龍からはミサカ尾根を左に送り、岩岳尾根へ。
岩岳14時。前飛龍から1時間15分、岩岳は忘れられた存在ではあるが、三角点もある。雑木の中の頂上は 1,519mと高さでは周りの峰には劣るものの、この「忘れられた存在」ということが大きな魅力である。



カサカサと乾いた音を立てて枯れ木の根っこの枯葉の海を歩くのは楽しい。10 年前の阿武隈の山を思い出させてくれる。

道は沢に下り、火打石谷合流点15時10分、最後のピリオドに備えて10分の休憩。小常木谷の出合を経て青梅街道に出て、丹波に16時15分に到着。バスは17時55分発、氷川に向かって湖岸を走る頃は山間の道は真っ暗闇。

次に加藤と行けるのはいつになるだろうか。

以上

（修正・更新：2023年11月）